

年内入試の動向

② 高校の動きから

リクルート 進学総研

鹿島 梓

高校現場の実態は？

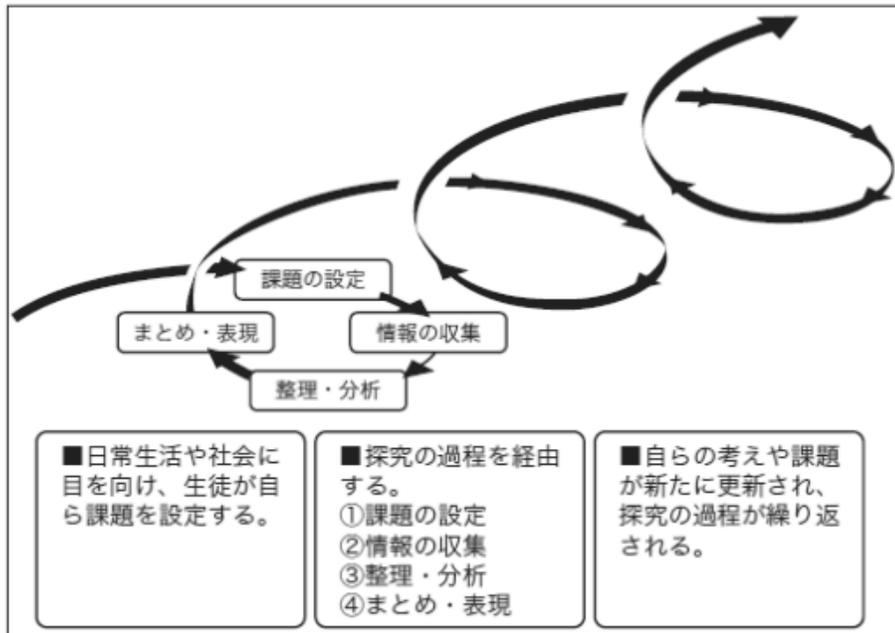
-リクルート高校教育改革調査2022より

<調査概要>

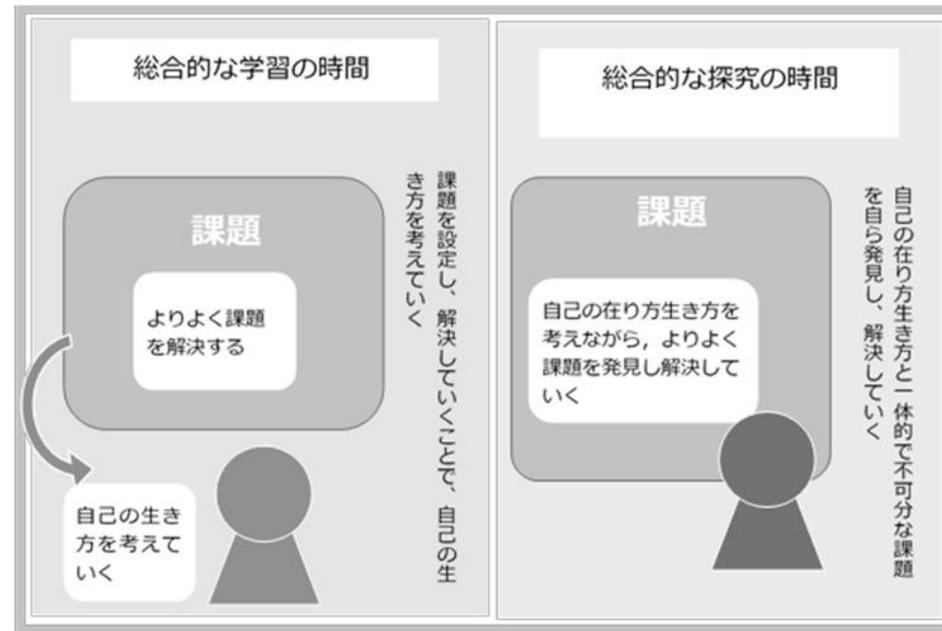
- 調査目的：高校の教育改革に関する現状を明らかにする
- 調査期間：2022年8月4日（木）～9月9日（金）投函締切
※2022年9月13日（火）到着分までを集計対象とした。
- 調査方法：郵送調査+インターネット調査
- 調査対象：全国の全日制高等学校4,721校
- 有効回答数：943件（回収率20.0%）

- ✓ 自ら課題（問い）を立て、その解決のために情報を収集し、分析し、アウトプットするまでの一連が探究
- ✓ 「調べ学習」との違いは「自らの課題」の有無と、自己の在り方・生き方と課題の同期
- ✓ 社会に出てからのビジネス等社会活動、大学における研究の前段階の思考を育んでいるともいえる

探究における生徒の学習の姿

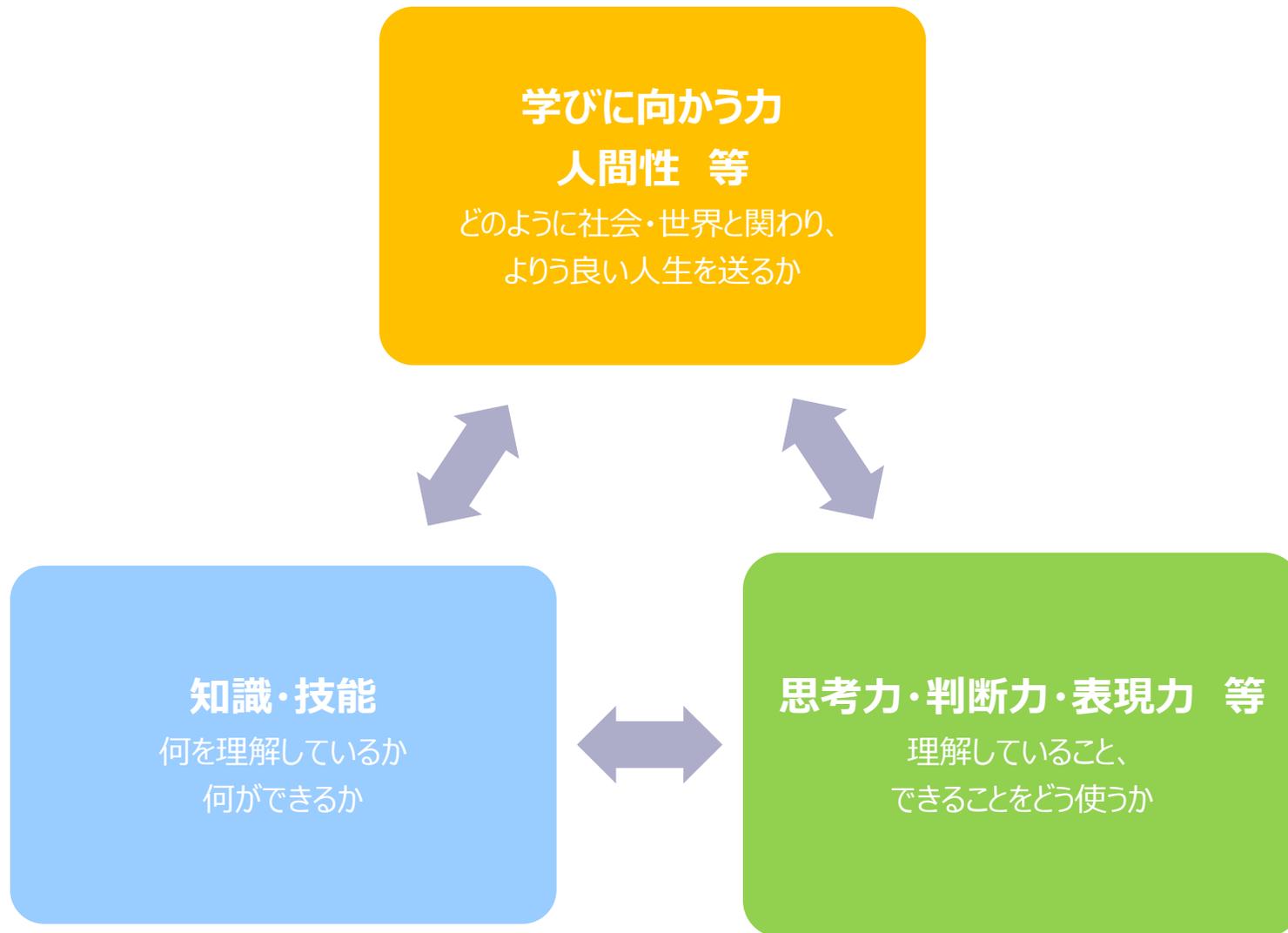


課題と生徒との関係（イメージ）



出典：文部科学省高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編

資質・能力の3つの柱

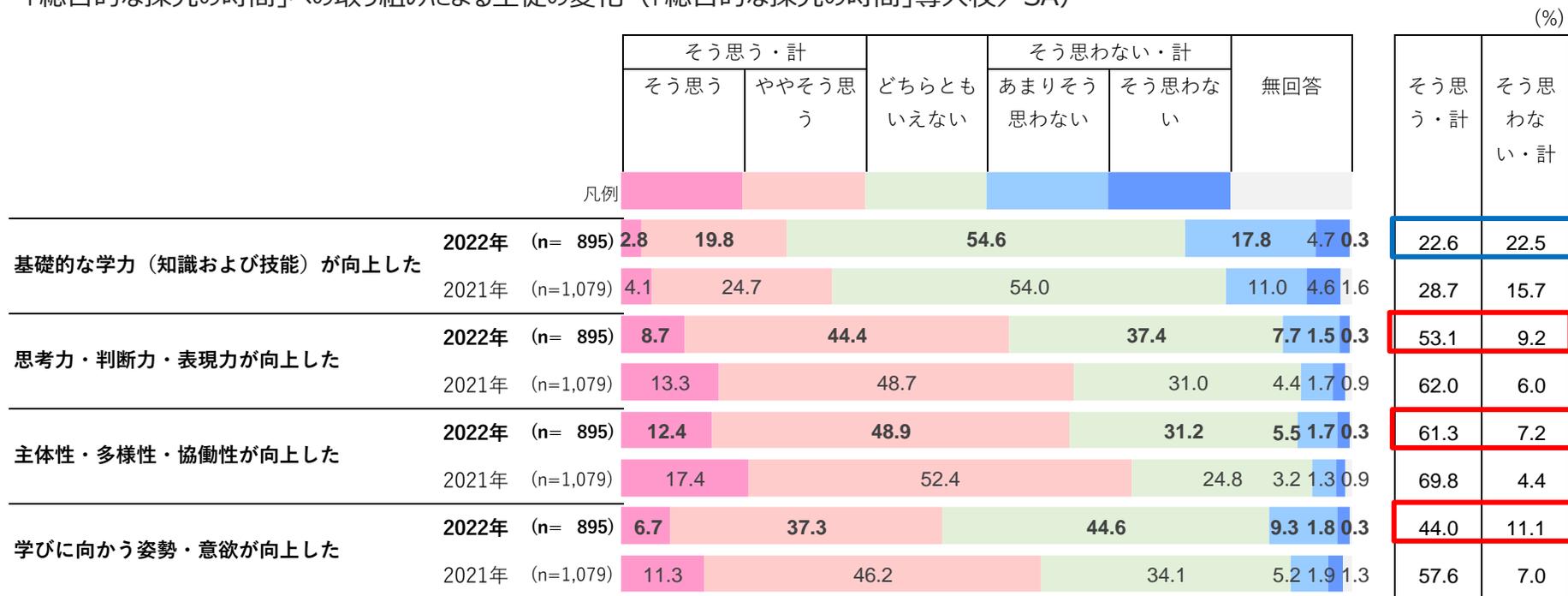


「主体性・多様性・協働性」「思考力・判断力・表現力」を成長させる探究

<データポイント>

- 探究を経た生徒の変化として「主体性・多様性・協働性」の向上を約6割が実感しているほか、「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう姿勢」でスコアが高い
- 一方、「基礎的な学力（知識及び技能）」は向上を感じている割合とそう思わない割合が共に約23%で拮抗

「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化（「総合的な探究の時間」導入校／SA）

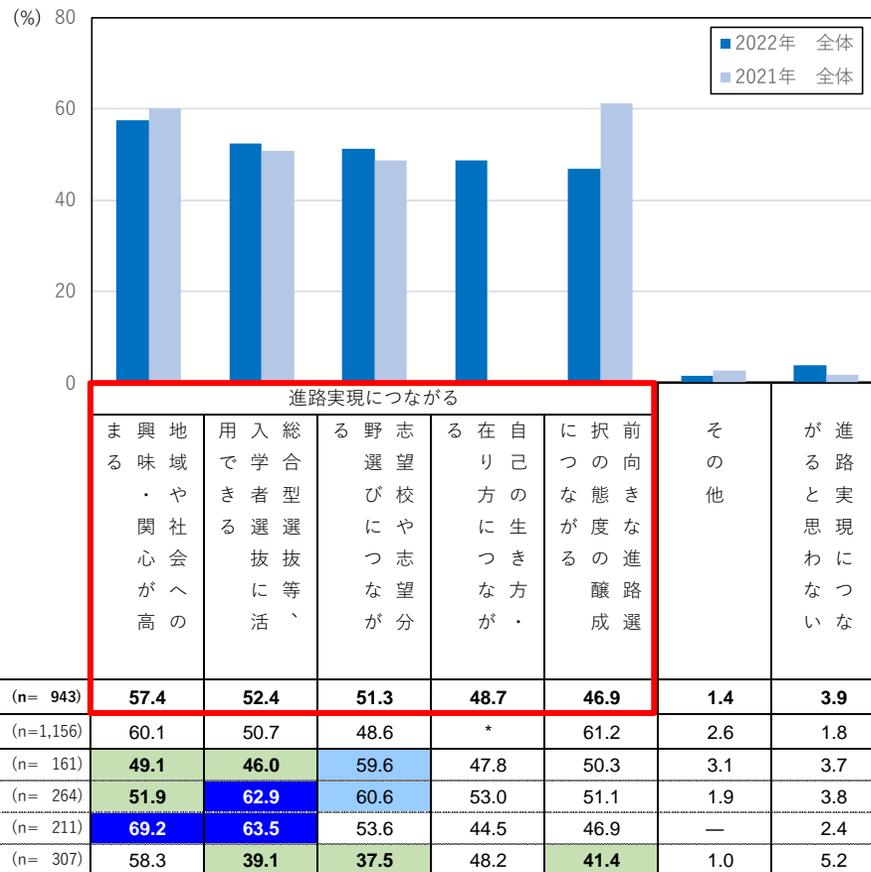


探究は進路実現にもつながる取り組みであるとする声が多い

<データポイント>

- 95%が「進路実現につながる」と感じているほか、提示した選択肢全てでスコアが40%を超えており、多くの影響があると感じられている
- 進学率70%以上の群では「志望校や志望分野選びにつながる」が高く、進学率40～95%未満の高校では「総合型選抜等、入学者選抜に活用できる」が高い
- 40～70%未満の群では、「地域や社会への興味・関心が高まる」が高い

「探究活動」の生徒の進路選択への
つながりについての考え (MA)



2022年 全体	(n= 943)	57.4	52.4	51.3	48.7	46.9	1.4	3.9	95.2
2021年 全体	(n=1,156)	60.1	50.7	48.6	*	61.2	2.6	1.8	97.9
95%以上	(n= 161)	49.1	46.0	59.6	47.8	50.3	3.1	3.7	95.7
大短	70～95%未満 (n= 264)	51.9	62.9	60.6	53.0	51.1	1.9	3.8	96.2
進学率別	40～70%未満 (n= 211)	69.2	63.5	53.6	44.5	46.9	—	2.4	96.7
40%未満	(n= 307)	58.3	39.1	37.5	48.2	41.4	1.0	5.2	93.2

※ 「2022年 全体」と比較して ■+10pt以上高い / ■+5pt以上高い / ■-5pt以上低い ※ 「2022年 全体」の降順にソート

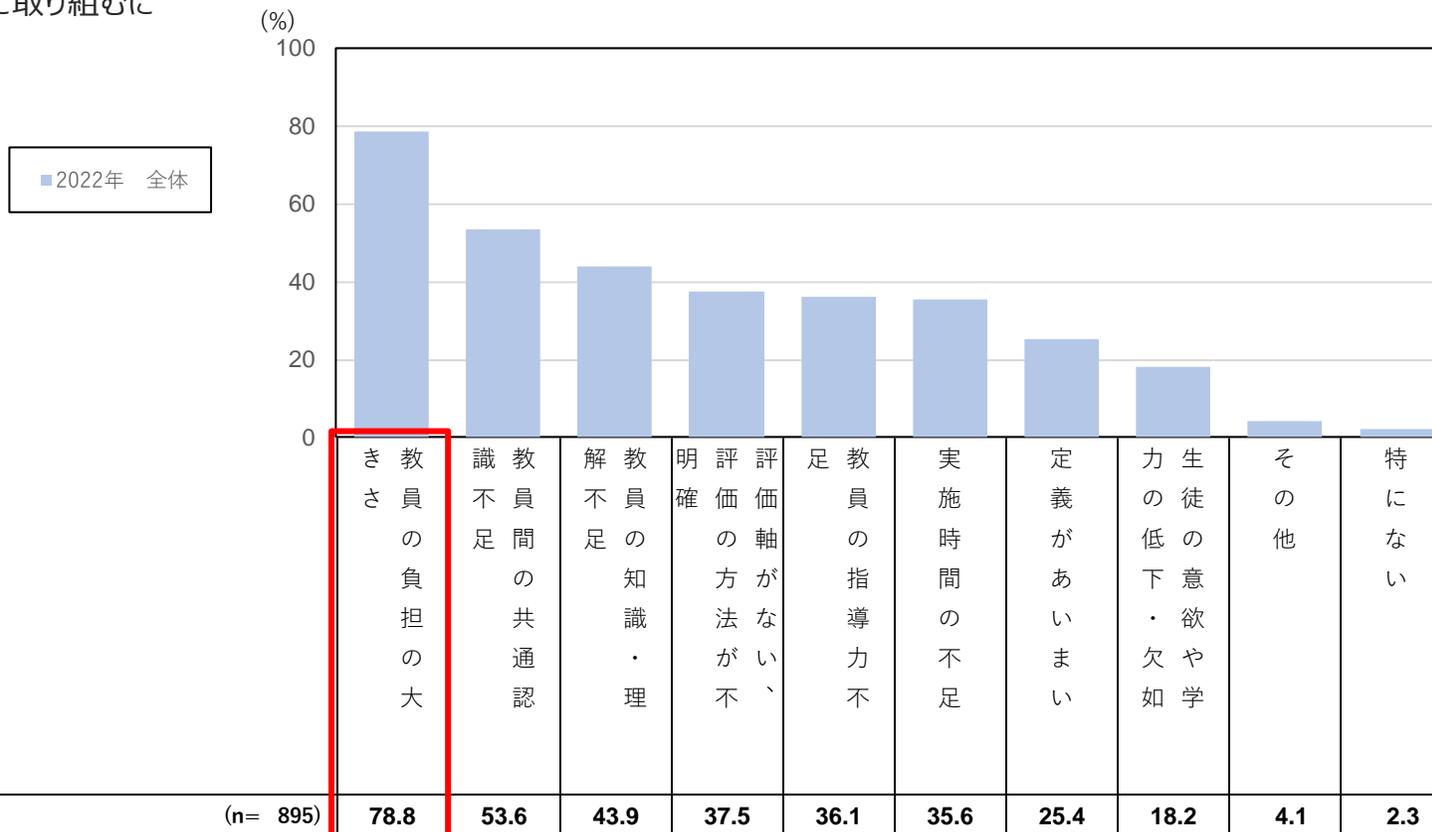
※ 「*」は該当の選択肢なし

課題は教員の負担

<データポイント>

- 1位「教員の負担の大きさ」が突出して高く、探究導入校の79%が課題に挙げている
- 2位以下も教員に関する課題が上位を占める
- 探究に積極的な群と「国の決めたことをやらされている」受動的な群で評価が分かれる様子が窺える

「総合的な探究の時間」に取り組むに
当たっての課題 (MA)



2022年 全体

(n= 895)

新課程導入やコロナ禍対応で進路指導時間が不足するなか、対応すべきことは増えている

<データポイント>

- 1位【学校】「教員が進路指導を行うための時間の不足」、2位【進路環境】「入学者選抜の多様化」、3位【生徒】「進路選択・決定能力の不足」、4位【生徒】「学力低下」、5位【生徒】「職業観・勤労観の未発達」
- 毎回上位項目の顔ぶれに大きな変化はないが、「教員が進路指導を行うための時間の不足」「入学者選抜の多様化」は特に大きく増加

「高校進路指導」上の課題（MA・%）



■ 2022年 全体
■ 2021年 全体
□ 2018年 全体



<まとめ>

- 「総合的な探究の時間」は95%の学校で導入が完了し、「主体性・多様性・協働性」の向上を約6割が実感
- 一方で「総合的な探究の時間」導入校の98%が何らかの課題を掲げ、特に教員に関する課題感が強い
- 「総合的な学習の時間」では「課題を設定し、解決していくことで自己の生き方を考えていく」とされていたのが、「総合的な探究の時間」では「自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し、解決していく」とされ、「自ら解決したいと思う課題を発見すること」が重視されている等、指導の難易度が上がっている
- 探究指導の難易度が進路指導の時間を圧迫している様子が見える一方で入試は多様化しており、対応に追われる様子が分かる
- 大学は探究学習について正しく理解し、大学教育につながるものとして共に生徒を育てるスタンスでの高大接続活動の検討を



スタディサプリ

高校・大学の取り組み事例等はHPに掲載しています。
「リクルート進学総研」

リクルート進学総研

